

2.2 第1回日本統計学会中村隆英賞

受賞のことは

高山 憲之（公益財団法人年金シニアプラン
総合研究機構）

私は大学の学部生時代、中村隆英先生がご執筆なさった教科書『統計学<上>』で、統計学の初歩を学びました。ご教導下さったのは腰原久雄先生でし



た。その後、大学院に進み、中村先生から直接、懇切丁寧なご指導を受けるようになり、研究者として知的に鍛えられる機会を数多く賜りました。

当時、中村隆英先生は、代表作『昭和史Ⅰ・Ⅱ』の刊行を準備中でした。その内容に関連する叡智に富んだお話を、知的興奮を覚えながら何回となく拝聴することができました。中村先生は、まさに、統計学や経済史の泰斗にとどまることのない“知の巨人”でした。

私にとって中村隆英先生は、いわば、憧れのアカデミシャンでした。その中村先生の名を冠した賞、それも第1回目の賞を受賞することができたのは、この上ない名誉であり、また、喜びでもあります。推薦者、および選考の手続きに関わって下さった全ての方々に、まず、心よりお礼申し上げます。

受賞理由としては、まず、次の4点が挙げられていました。第1は、貧困の計測に関する研究であり、新たな指標を考案したこと、第2は、「全国消費実態調査」等のマイクロデータを活用した計量分析、第3は、年金を始めとする社会保障制度の理論的計量的研究、第4は、新たなパネルデータの構築と利用、です。さらに、統計審議会・年金審議会等への参画を通じて、上述の成果・知見が国の経済統計整備や社会保障政策等に活用されるよう尽力したことにも言及がありました。

研究者として一人前になるために、私を親しくご指導下さったのは、中村隆英教授、宮崎義一教授、小宮隆太郎教授、宇沢弘文教授、浜田宏一教授、の5人でした。また、長年にわたり、自由に研究するための中核的な活動拠点をご提供下さったのは、一

橋大学経済研究所と年金シニアプラン総合研究機構です。一橋大学では、溝口敏行先生、倉林義正先生から格別のご指導を賜りました。年金シニアプラン総合研究機構では福山圭一氏と吉野隆之氏から過分のご厚遇を頂戴しました。さらに、マイクロデータ利用の共同研究者として長期間、お力添えとお世話を賜ったのは、北村行伸教授です。

他方、世代間問題プロジェクトの共同研究者としてパワフルにご助勢下さったのは、鈴木興太郎先生、玄田有史先生、青木玲子先生、小椋正立先生、小塩隆士先生、臼井恵美子先生です。加えて、旧社会保険庁が保有していた日本人一人ひとりの年金加入記録、それを転記した膨大なパネルデータの構築と利用に稲垣誠一先生は、類まれな知恵と多大なエネルギーをお貸し下さいました。

この他、私の研究秘書（菫澤まやさん、斎藤瑞穂さん、カン・ビクトリアさん、富岡亜希子さん）や多くの事務担当者（特に、中村廣宣さん、亀山幸子さん、河本あや子さん、宮田晴美さん、木崎久実子さん、岡村なな子さん等）さらには研究成果書の編集担当者（特に黒野幸春氏〈中村隆英著『昭和史Ⅰ・Ⅱ』の編集者でもあります〉）から、心温まる手厚いご支援を賜りました。

以上に列記した全ての方々に対して、ここに、改めて心より深く感謝申し上げます。